

バークリー, ヒューム

2016 年本試

問 5 次のア～ウは、経験に知識の源泉を求めた思想家の説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

33

- ア 事物が存在するのは、私たちがこれを知覚する限りにおいてであり、心の外に物質的世界などは実在しないと考え、「存在するとは知覚されることである」と述べた。
- イ 私たちには生まれつき一定の観念がそなわっているという見方を否定し、心のもとの状態を白紙に譬えつつ、あらゆる観念は経験に基づき後天的に形成されるとした。
- ウ 因果関係が必然的に成り立っているとする考え方を疑問視し、原因と結果の結び付きは、むしろ習慣的な連想や想像力に由来する信念にほかならなると主張した。

- |   |   |       |   |      |   |       |
|---|---|-------|---|------|---|-------|
| ① | ア | ヒューム  | イ | ベーコン | ウ | バークリー |
| ② | ア | ヒューム  | イ | ベーコン | ウ | ロック   |
| ③ | ア | ヒューム  | イ | ロック  | ウ | バークリー |
| ④ | ア | ヒューム  | イ | ロック  | ウ | ベーコン  |
| ⑤ | ア | バークリー | イ | ベーコン | ウ | ヒューム  |
| ⑥ | ア | バークリー | イ | ベーコン | ウ | ロック   |
| ⑦ | ア | バークリー | イ | ロック  | ウ | ヒューム  |
| ⑧ | ア | バークリー | イ | ロック  | ウ | ベーコン  |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	33	⑦	3

2014 年追試

問 5 哲学の歴史では「疑うこと」が様々な役割を果たしてきたが、次のア～ウはそれらについて説明したものである。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 

33
----

ア デカルトは、少しでも疑い得るものは虚偽としてしりぞける方法的懐疑を徹底した結果、疑っている限りの我の存在だけは確実であると考えに至った。そして、それを土台にして、一切の学問を築き上げようとした。

イ ヒュームは、経験論を徹底させて、人間の心は単なる「知覚の束」にすぎないと主張した。そしてそこから、実在するのは流れゆく知覚だけで、実体としての精神は存在しないという懐疑的立場を取った。

ウ カントは、人間の認識能力を検討して、「物自体」は認識できず、人間の主観によって対象は構成されると考えた。それゆえ、「存在することは知覚されること」だと主張し、物体の実在を否定する懐疑的結論に至った。

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	33	②	3

2012 年追試

問 6 ヒュームが共感を論じた次の文章を読み，そこから導き出される見解として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 36

私たちは，自分とは疎遠な人よりも自分に近い人に強く共感するし，見知らぬ人より知り合いに，外国人より同国人に強く共感する。……だが一方で，人や物事に対する私たちの状況は，絶えず変化している。だから，今は疎遠な間柄の人でも，少し時間が経てば，親しい知人になるかもしれない。そのうえ，それぞれの人が，他の人に対して独自の位置を占めている。だから，もしそれぞれが自分の特殊な見方に映るままに他の人の性格や人物を捉<sup>とら</sup>えるなら，私たちは筋の通った会話すらできないだろう。それゆえ，このような絶えざる矛盾を防ぎ，より安定した判断に達するために，私たちは何らかの不動で一般的な観点を定める。そして，物事を考える場合にはいつも，自分がおかれた現状から離れて，この観点到自分をおくのである。

(ヒューム『人間本性論』)

- ① 私たちは，見知らぬ国で貧困に苦しむ者には，身近なところで貧困に苦しむ者ほどには共感できない。だが，自分の見方が状況次第で変化するという事実を肯定すれば，見知らぬ者の大切さを認めることができる。
- ② 私たちは，身近なところで貧困に苦しむ者と比べて，見知らぬ国で貧困に苦しむ者には共感できない。だが，状況が変化して親しい知人になれば，共感<sup>きかん</sup>は容易になり，貧困について偏見を捨てて論じ合おうとする。
- ③ 私たちは，見知らぬ国で貧困に苦しむ者よりも，身近なところで貧困に苦しむ者に強く共感する。だが，貧困について論じる際には，共感の偏りに左右されない視点に立って意思の疎通をはかろうとする。
- ④ 私たちは，身近なところで貧困に苦しむ者については，共感しすぎてしまう。だが，遠く離れた見知らぬ国で貧困に苦しむ者については，自分たちがおかれた現状を離れて，冷静に論じることができる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 5 問	問 6	36	③	3

2010 年本試

問 4 ヒュームの懐疑論の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

26
----

- ① 科学の方法は絶対的な真理を保証するものではないのだから、すべての判断を停止することによって心の平静を保つべきである。
- ② 最も賢い人間とは、自分自身が無知であることを最もよく知っている人間なのだから、自己の知を疑うよう心がけるべきである。
- ③ 帰納法から導かれる因果関係は、観念の習慣的な連合によって生じたのだから、単なる信念にすぎないことを認識すべきである。
- ④ 人間はたえず真理を探究する過程にある以上、真理は相対的なものでしかあり得ないので、つねに物事を疑い続けるべきである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	26	③	3